

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>(イ) ミャンマー視覚障害者の社会的・経済的自立とその安定化を図る。</p> <p>(ロ) 全国盲学校における医療マッサージ教員の養成とその普及を図る。</p> <p>(ハ) 訓練センターにおいて教員育成にあたる指導者を養成する。</p>
(2) 事業内容	<p>(イ) 第3期生12名の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練センターにおいて盲学校8校から12名の第3期生を受け入れ、「視覚障害者医療マッサージ教員養成カリキュラム」に従い指導を行っている。 <p>(ロ) 訓練センターにおける指導教員候補生2名の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人専門家に代わって将来長期的に訓練センターにおいて指導を行う教員候補生を第1期生から2名選出し、専門家のもとで指導を行っている。 ・ 11月2～8日に指導教員候補生2名を短期間日本に招聘し、視覚障害者の最先端教育に触れさせる研修機会を提供した。併せて、付添1名、社会福祉省傘下の盲学校の校長、副校長1名ずつ計2名を招聘し、研修の機会を提供した。 <p>(ハ) カリキュラムの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練センターにおける教員養成の拠所となる「視覚障害者医療マッサージ教員養成カリキュラム」および、全国盲学校でのマッサージ師養成の拠所となる「盲学校医療マッサージ科全国標準教育カリキュラム」を作成した。 <p>(ニ) 教科書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期より作成を開始した「盲学校医療マッサージ科全国標準カリキュラム」の教科書を完成させる。 <p>(ホ) 新訓練センターの建設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療マッサージ教員養成施設である訓練センターの発展を図るため、ヤンゴン市内に所在する社会福祉省直轄の国立盲学校敷地内に「新訓練センター」を建設中である。 <p>(ヘ) モンヨア盲学校における専門施設の建設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マッサージ指導の環境が十分でない「モンヨア盲学校」において、指導教室および外来診療に使用できるような医療マッサージ専門施設を建設した。 <p>(ト) 各種啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方や農村部に住む視覚障害者を発掘し、既存盲学校への入学を促進する就学支援として、各盲学校自身のオープンスクールをともに共同企画する予定であったが、開催盲学校の受け入れ問題があり、前期に実施できなかった。2013年1月19日及び3月もしくは5月に開催予定。 ・ 日本より短期専門家7名を派遣し、ヤンゴンにおいて年2回の予定のうち1回目の全国規模セミナーと、年4回の予定のうち、3回の公開講座を実施した。

(3) 達成された効果

(イ) 第3期生12名の受入れ

- ・計画通り、盲学校8校から12名の第3期生を受け入れた。医療マッサージの盛んな日本より派遣された専門家が系統立ててカリキュラムを作成した。これに基づいて指導を行うことにより、高いレベルで平準化された教育が行われている。

(ロ) 訓練センター教員候補生2名の養成

- ・教員候補生1期生2名は指導者として2年目に入った。その指導に関しては1年目の事例を踏まえ、改善、工夫することで、生徒が学習しやすい環境づくりを行っている。日本への訪問研修後は更に訓練センター教員になるという自覚が高まり意欲的に技術指導に励んでいる。

(ハ) カリキュラムの作成

- ・日本人専門家が「視覚障害者医療マッサージ教員養成カリキュラム」「盲学校医療マッサージ科全国標準教育カリキュラム」を作成した。これらにより、教員養成およびマッサージ師養成の指導を全国レベルで行うことのできる下地が整った。また両カリキュラムとも、各種技法の進歩等により、適宜見直しを行いながら運用する。

(ニ) 教科書の作成

- ・教科書「盲学校医療マッサージ科全国標準カリキュラム」の完成まで進捗率約40%の状況。

(ホ) 新訓練センターの建設

- ・国立盲学校敷地内に新訓練センターを建設することで、ミャンマー視覚障害者教育における中心的役割を果たす。建築物の工事進捗率は約60%である。

(ヘ) モンヨア盲学校における専門施設の建設

- ・マッサージ指導の環境が十分でない「モンヨア盲学校」において、指導教室および外来診療に使用できるような医療マッサージ専門施設を建設した。11月30日完工、12月9日、日本大使館、社会福祉省関係者らを迎え開所式を開催した。
- ・人体模型は、全盲学校8校に納入した。これにより一層、体の仕組みに対する理解が深まる。
- ・モンヨア盲学校における専門施設の完成により、全国8校の専門施設が完備した。

(ト) 各種啓発活動

- ・全2回の全国規模セミナーの予定の内、1回を開催し、2日間で延べ179名の参加者を集め行われた。「日本におけるマッサージ教育制度と免許制度」の講演を実施した。実技指導に関しては4組に分かれてマッサージの講習を行った。特に地方では医学的な裏付けのない中、マッサージを行っている人が多い。その効果、効能は感覚的なものが多かった。医療マッサージを受講することで、医療知識を背景とした施術を学ぶことができた等、参加者満足度の高いセミナーとなった。また継続的なセミナー開催の要望が相次いだ。
- ・公開講座は全4回の予定のうち3回を開催し各6日間、計18日間で延べ168名の参加者を得た。経験豊富な専門家による指導により、生徒は自己の技術の再確認はもとより、実践に即した対応が学べることで、その施術力が向上する。これにより指導者・施術者としての自信が深まり、大いに

	<p>感謝された。</p> <p>(チ) 盲学校での医療マッサージの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国 8 校の盲学校では地域住民に対して、医療マッサージを提供している。一部の学校では出張サービスも行うようになった。 ・マッサージサービスを提供数は 7 月～11 月の期間で合計 13,074 名の来客数となった。1 カ月当たりの来客数は 2,614 名となっている。これは 11 月末時点で昨年度平均の 1,650 人より大幅な増加となっている。モンヨアのマッサージ施設が整ったことにより、裨益者数の更なる増加が見込まれる。利用者にとって、身体機能が良好になる医療マッサージはリラクゼーションマッサージとは明らかに違いが感じられるとの感想がある。
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>(イ) 1 期生は、各母校で盲学校医療マッサージ科全国標準教育カリキュラムに沿って、訓練センターでの授業ノートを使用しながら教員として、引き続き指導を行う。</p> <p>2 期生は、母校で指導実習を行っている。後期も引き続き指導実習を 2013 年 2 月末まで継続する。指導実習にあたる 4 回目（最終）の集中講義を地方の盲学校で行う。指導実習修了後は、卒業研究を実施し、卒業前の 2 月下旬に発表会を開催する。訓練センターでのトレーニングを終了し、3 月 1 日に卒業式を行い、その後は指導者として母校で教鞭をとる予定である。</p> <p>(ロ) 3 期生のトレーニングは、後期も引き続き訓練センターで継続し、来年の指導実習に備えている。</p> <p>(ハ) 残り 1 回の全国セミナーをヤンゴンの商工会議所ホールで開催する。これには一般の視覚障害者マッサージ師も招待する。延べ 200 名の参加者を見込む。公開講座は予定通り残り 1 回の開催を予定。約 30 名の参加者を見込む。</p> <p>(ニ) オープンスクールは、開催盲学校の受け入れ問題があり、前期に実施できなかったが、盲学校への入学を促進する就学支援として、カワエジャン盲学校のオープンスクールを共同企画し 2013 年 1 月 19 日開催予定である。残り 1 回は 3 月か 5 月にミッチーナ盲学校での開催を予定している。</p> <p>(ホ) 本事業 3 期目終了時には、「盲学校医療マッサージ科全国標準教育カリキュラム」のための教科書を完成させる。統一された教材で学習を行うことが可能になり、全国の盲学校での教育水準を保つことが可能となる。</p> <p>(ヘ) 2013 年 3 月末には、ヤンゴン市内に社会福祉省傘下のチーミンダイイン盲学校敷地内に新訓練センターが完成の予定。ミャンマーにおいて盲学校の医療マッサージ教員を養成する唯一の専門機関として、また視覚障害者教育の研究拠点としての役割を担う。</p> <p>(ト) 「視覚障害者医療マッサージ教員養成カリキュラム」「盲学校医療マッサージ科全国標準教育カリキュラム」を全国的な規模で用いることにより、視覚障害者教育全体としてのレベルアップ並びに均一化を目指す。</p> <p>(チ) モンヨア盲学校における指導教室および外来診療に使用できるような医療マッサージ専門施設が完成し、それに伴い、マッサージ指導の環境が整い、マッサージ技術のレベルアップ及び、地域住民に対し外来診療サービスを充実させることが出来る。これにより、視覚障害者の社会的、経済的自立の助けとなる。</p>